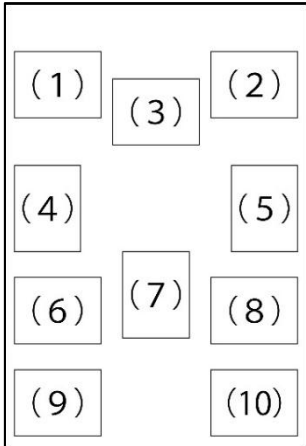


2025年3月26日
日本郵便株式会社

特殊切手「気象業務 150 周年」の発行

日本郵便株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 千田 哲也）は、内務省地理寮の東京気象台が明治 8（1875）年 6 月 1 日に気象業務を開始し、令和 7（2025）年で 150 周年を迎えることを記念して、特殊切手「気象業務 150 周年」を発行します。

1 発行する郵便切手の内容

名 称	気象業務 150 周年
発 行 日	2025 年 5 月 28 日（水） ^{（注1）}
種 類	110 円郵便切手（シール式）
切 手 画 像	別紙のとおり
シ ー ト 構 成 ・ 意 匠	 <ul style="list-style-type: none">(1) 2016 年 6 月 1 日の衛星画像(2) 2016 年 6 月 1 日の天気図(3) ひまわり 9 号の初画像(4) 気象庁麹町区元衛町時代庁舎と露場(5) 気象庁虎ノ門庁舎と正面玄関プレート(6) 初代スーパーコンピュータ(7) ウィーヘルト地震計と震動波形のイメージ(8) NAPS11（スーパーコンピュータ）(9) 火山の機動観測(10) 凌風丸（海洋気象観測船） シート余白：気象庁マスコットキャラクター「はれるん」
売 価	1,100 円（シート単位で販売します。）
小切・印面寸法	(1) ~ (3)、(6) および (8) ~ (10) 縦 28.0 mm × 横 36.5 mm (4)、(5) および (7) 縦 36.5 mm × 横 28.0 mm
シ ー ト 寸 法	縦 187.0 mm × 横 127.0 mm
切手デザイン	丸山 智（切手デザイナー）
版 式 刷 色	オフセット 6 色
発 行 枚 数	500 万枚（50 万シート）
販 売 場 所	・ 全国の郵便局など ^{（注2）} ・ 郵便局のネットショップ内「切手・はがきストア」 ^{（注3）} ・ 銀座郵便局での通常払込みによる通信販売

2 気象業務について

明治 8（1875）年 6 月 1 日、東京府第二大区（のち赤坂区）溜池葵町において内務省地理寮の東京気象台が気象業務を開始してから、令和 7（2025）年で 150 年の節目の年となります。

気象業務とは、気象や気候、海洋、地震、津波、火山などの自然現象の観察・観測、観測データの

取得・収集、スーパーコンピュータなどをはじめとする各種システムを活用した解析・予測、情報の作成・提供、さらにはそれらに必要な調査・研究などの業務を言います。

また、気象業務は気象庁のみならず、自治体や民間事業者など、さまざまな主体によって実施され、天気予報などは生活に身近なものであるとともに、自然災害から命や財産を守るために重要な役割を果たしています。

3 発行する郵便切手のデザインについて

150年間の気象業務の発展の歴史にちなむ題材を写真とイラストでデザインしました。

余白には、封かんなどにご利用いただけるよう、気象庁マスコットキャラクター「はれるん」のシールを配置しています。

(1) 2016年6月1日の衛星画像

ひまわり8号の観測期間で最初の気象記念日の衛星画像です。ひまわり8号は、平成27(2015)年7月7日に観測を開始しました。

(2) 2016年6月1日の天気図

ひまわり8号の観測期間で最初の気象記念日の天気図です。時刻は左の衛星画像に合わせています。

(3) ひまわり9号の初画像

平成29(2017)年1月24日午前11時40分(日本時間)、ひまわり9号によって撮影された初画像です。

(4) 気象庁麴町区元衛町時代庁舎と露場

気象観測地点「東京」は、明治8(1875)年の溜池葵町(現在の港区虎ノ門)以降、庁舎とともに移転が行われ、明治15(1882)年に麴町区代官町(現在の皇居北桔橋門付近)、大正12(1923)年に麴町区元衛町(現在の千代田区大手町)、そして、平成26(2014)年からは、庁舎が港区虎ノ門に移転することに先立ち、千代田区北の丸公園へ移転しました。写真は昭和39(1964)年頃の麴町区元衛町の露場です。

(5) 気象庁虎ノ門庁舎と正面玄関プレート

気象庁は、145年を経て令和2(2020)年に再び港区虎ノ門に戻りました。新庁舎は防災に重点を置いて建築され、災害時にも十分な機能性を確保できるものとなっています。

(6) 初代スーパーコンピュータ

昭和34(1959)年3月に、気象庁は数値予報を行うため、わが国の官公庁では初めて大型計算機(スーパーコンピュータ)を導入しました。イラストには、当時の気象庁長官(和達 清夫氏、イラスト左)と当時のスーパーコンピュータが描かれています。

(7) ウィーヘルト地震計と震動波形のイメージ

1920年代から1960年代にかけて、中央气象台・気象庁の代表的な地震計として観測に用いられた「ウィーヘルト地震計」です。倒立した振子の不動点のおもり(左上側)と、^{すず}煤をかけた紙を巻いた筒(右上側)の間の揺れを、軽い描針により筒に地震波を記録する大型の機械式地震計です。手前のおもりは、紙を巻いた筒を回転させるためのものです。

(8) NAPS11(スーパーコンピュータ)

令和6(2024)年3月に運用を開始した気象庁の最新のスーパーコンピュータです。地球大気や海洋・陸地の状態の変化を数値シミュレーションによって予測する数値予報の計算などに使用するものです。昭和34(1959)年に導入した初代から数えて11番目に当たります(NAPS11)。

(9) 火山の機動観測

気象庁では、火山近傍に地震計・空振計などの観測施設を整備し、その観測データを常時監視していますが、火山活動に変化が起こった場合、火山に出向き観測を行う「機動観測」を行っています。

(10) 凌風丸（海洋気象観測船）

昭和 12（1937）年に海洋気象観測船「凌風丸Ⅰ世」が建造され、本格的に気象庁の海洋気象観測船による外洋観測が始まりました。写真は令和 6（2024）年 3 月に就航した「凌風丸Ⅳ世」です。

線状降水帯予測のための海上での水蒸気の観測や、気候変動監視のための海水温など、さまざまな海洋の観測を担います。

4 その他

通信販売などの販売概要、郵趣のための記念押印サービスについては、弊社 Web サイトでお知らせします。

【注釈】

（注 1）切手の販売は、発行日の午前 9 時からとなります。

（注 2）一部の郵便局においては、お取り寄せとなる場合があります。

売り切れる場合もありますので、あらかじめご了承ください。

（注 3）郵便局のネットショップ内「切手・はがきストア」への掲載は、2025 年 5 月 28 日（水）の予定です。

以 上

【お客さまのお問い合わせ先】

日本郵便株式会社

お客様サービス相談センター

<電話番号>

0120-23-28-86（フリーダイヤル）

携帯電話からご利用のお客さま

0570-046-666（通話料はお客さま負担です）

<ご案内時間>

全日 8:00～21:00

ガイダンスが流れますので、「*」のあとに「1」を選択してください。

おかけ間違いのないようご注意ください。